

## VII 生命医科学プログラム



# 1 生命医科学プログラム

本プログラムは令和元年4月に基礎生物学から医療科学に渡る広範な生物・生命系研究領域の知識と研究実践力を習得し、社会的要請に柔軟に対応できる人材の育成を目標として誕生した。

## 1-1 プログラムの理念と目標

超高齢化社会を迎えた我が国において、高度先進医療の更なる充実と発展に対する期待は益々高まっている。同時に基礎生命科学の進展も目覚ましく、それら知見・発見のいち早い臨床応用が期待されている。しかし、医療現場と基礎生命科学研究の間には、以前より「死の谷」と称される知識的・制度的・人的な隔りがあり、基礎研究成果の効率的な応用や医療知識の基礎生命科学へのフィードバックにとって大きな障害となっている。

以上の状況を踏まえ、基礎生命科学と医療科学の双方に対する深い知識と探求心をもち、生命科学分野・医科学分野及び関連産業分野の発展に貢献する人材の育成が急務となっている。「生命医科学プログラム」では、広島大学の多様な生命科学系教員・医療科学系教員を結集し、医療科学の現場を意識した基礎生命科学教育を行う。これにより、基礎生物学から医療科学に渡る広範な生物・生命系研究領域の知識と研究実践力を習得し、社会的要請に柔軟に対応できる人材の育成を目指す。

## 1-2 プログラムの組織と運営

本プログラムは、令和元年4月の大学院統合生命科学研究科の設立に伴い誕生した。本プログラムは統合生命科学研究科の他6つの学位プログラムとは異なり、前身をもたない学位プログラムであり、本プログラムを構成する教員全員が他学位プログラムや学内センターとの兼任となっている。令和2年度末の時点で、運営教員会は16名、教育教員会は39名で構成されている。

本プログラムの運営は、プログラム長を中心として行い、副プログラム長がそれを補佐する。他には、学務委員、研究推進委員、国際交流委員、入試委員、広報委員を定め、各種研究科委員会との連絡・審議を行う。本プログラムの運営に関わる諸問題については、定期的開催する運営教員会で審議する。

### 1-2-1 教職員

《令和2年度構成員》 R3.3.31現在

39名の所属教員のうち、理学部に関係する教員のみ掲載する。

がん生物学	菊池 裕（教授）、高橋治子（助教）
神経生物学・細胞生物学	千原崇裕（教授）、濱生こずえ（准教授）、奥村美紗子（助教） 高井嘉樹（特任助教）
発生生物学・進化生物学	荻野 肇（教授）、井川 武（助教）、鈴木 誠（助教）
器官再生学	林 利憲（教授）
分子生物物理学	楯 真一（教授）、安田恭大（助教）

システムゲノム科学	山本 卓（教授），坂本尚昭（准教授），佐久間哲史（准教授）， 落合 博（講師），細羽康介（助教）
計算生物学	富樫祐一（准教授）
放射線生物学	津田雅貴（助教）
RNA生物学・エピゲノム学	今村拓也（教授）
ゲノム情報科学	坊農秀雅（特任教授）
超階層システム数理行動学	杉 拓磨（特任准教授）
理化学研究所広大共同研究拠点	岩根敦子（特任教授）
ゲノム編集イノベーションセンター	下出紗弓（助教）
生命医科学事務室	松浦友美（契約一般職員）

## 1-2-2 教員の異動

令和2年度の教員の異動について、下記一覧表に示す。

	発令 年月日	氏名	異動内容		
				現所属等	新所属等
1	R2.4.1	富樫祐一	在籍出向 期間更新	数理生命科学・生命医科学プログラム 准教授	クロスアポイントメント 広島大学（8.5）：理化学研究所（1.5）
2	R2.4.1	今村拓也	採用	九州大学 准教授	生命医科学・基礎生物学プログラム 教授
3	R2.4.1	坊農秀雅	採用	情報・システム研究機構 特任准教授	生命医科学・数理生命科学プログラム 特任教授
4	R2.4.1	杉 拓磨	採用	滋賀医科大学 助教	生命医科学・数理生命科学プログラム 特任准教授
5	R2.4.1	佐久間哲史	昇任	数理生命科学・生命医科学プログラム 講師	数理生命科学・生命医科学プログラム 准教授
6	R2.4.1	高井嘉樹	配置換	生命医科学プログラム 研究員	生命医科学プログラム 特任助教
7	R3.3.31	富樫祐一	辞職	数理生命科学・生命医科学プログラム 准教授	立命館大学（R3.4.1～） 教授

## 令和2年度生命医科学プログラムの各種委員

生命医科学プログラム内の各種委員会委員

委員会名	令和2年度
プログラム長	千原崇裕
副プログラム長	今村拓也

学務委員	石原康宏
自己点検・評価委員	千原崇裕
研究推進委員	林 利憲
国際交流委員	上野 勝
入試委員	千原崇裕
広報委員	落合 博

### 1-3 プログラムの大学院教育

#### 1-3-1 大学院教育の目標とアドミッション・ポリシー

本プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに定める人材の育成を目指し、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施している。

- 1) 国際的視野に立った学際的な学識を備え、生命科学、医科学及びその周辺分野における研究を自立して実践できる能力及び高度な専門的能力を習得する教育を行う。
- 2) 人類の健康長寿を意識しながら学際的生命科学領域を体系的に学ぶことで、将来の生命科学分野及び医科学分野を牽引できる人材を育成するための教育を行う。なお、学際的生命科学領域とは、医学、歯学、薬学、理学、工学、農学を含む。
- 3) グローバルな視野を持って常に人類の健康と長寿を希求し、生涯において自己研鑽できる人材を養成するための教育を行う。

アドミッション・ポリシーは以下の通りである。

##### 博士課程前期

- 1) 人類の健康・長寿を支える医科学的知識に関心を持ち、生命科学分野、医科学分野及び関連産業分野に貢献することを志す人
- 2) 健康及び病的状態を基礎生物学的視点から多角的に捉えることができる人
- 3) 社会人としての良識や倫理観を身につけた人

##### 博士課程後期

- 1) 人類の健康・長寿を支える医科学的知識に関心を持ち、生命科学分野、医科学分野及び関連産業分野の発展に貢献することを志す人
- 2) 健康及び病的状態を基礎生物学的視点から多角的に捉えることができる人
- 3) 社会人としての良識と研究者・高度専門技術者としての倫理観を身につけた人

#### 1-3-2 大学院教育の成果とその検証

大学院での教育は、講義と演習、セミナーなどの授業、主指導教員による密接な個別研究指導（研究室における修士論文、博士論文の指導）、更には副指導教員による定期的な研究進捗状況の確認を行っている。プログラム設立から2年のうちに、博士課程前期の段階で国際誌に原著論文が筆頭著者として採択された学生も2名出てきている。生命医科学プログラムにおける独自の中間発表：生命医科学セミナーは、発表、質疑応答の準備及び経験を通して、学生自身の研究を客観的な視点で見つめ直す機会となっており、高い学習効果を得られている。令和元・2年度とも、必修科目の生命医科学セミナーに加え、医科学分野の研究者と交流を促す目的で医系科学研究科との合同シンポジウムを企画していたが、新型コロナウイルス感染症のため非開催となったのは残念である。今度もこの取り組みを継続する予定である。

## 大学院学生の在籍状況及び学位授与状況

理学部に関係する教員が担当する学生は（ ）に内数を掲載する。

【修士課程，博士前期課程】	令和2年度
入学定員（各年度4.1現在）	20人
入学者数（各年度11.1現在）	10(6)人
定員充足率	50%
在籍者数（各年度11.1現在）	24(11)人
留年，退学，休学者数 ※1（全ての学年，各年度内の該当人数）	1人
留年，退学，休学者率	4%
学位（修士）授与数（各年度3.31現在）	14(5)人
学位授与率 ※2	93%

【博士後期課程，博士課程（一貫制）】	令和2年度
入学定員（各年度4.1現在）	6人
入学者数（各年度11.1現在）	5(5)人
定員充足率	83%
在籍者数（各年度11.1現在）	10(8)人
留年，退学，休学者数 ※1（全ての学年，各年度内の該当人数）	0人
留年，退学，休学者率	0%
学位（博士）授与数（各年度3.31現在）	0人
学位授与率 ※2	0%
論文博士授与数（各年度3.31現在）	0人

※1 休学者数については，当該年度内（1年間）休学している者の数を留年，退学者数とあわせ記入。

※2 学位授与率については，修士課程の場合においては当該年度の学位授与数を2年前の入学者数で割った数値，博士課程の場合においては当該年度の課程博士授与数を3年前（医・歯・獣医学は4年前，5年一貫制の場合は5年前）の入学者数で割った数値。

## 大学院学生の就職・進学状況

【修士課程，博士前期課程】	令和2年度
修了者数	14人
大学の教員（助手・講師等）	0人
公的な研究機関	0人
企業（研究開発部門）	2人
企業（その他の職種）	5人
学校（大学を除く）の教員	0人

公務員（公的な研究機関を除く）	0人
進学（博士課程，留学等）	4人
その他	3人

【博士後期課程，博士課程（一貫制）】	令和2年度
修了者数	0人
大学の教員（助手・講師等）	0人
公的な研究機関	0人
企業（研究開発部門）	0人
企業（その他の職種）	0人
公務員（公的な研究機関を除く）	0人
ポスドク（同一大学）	0人
ポスドク（他大学等）	0人
進学（留学等）	0人
その他	0人

### 1-3-3 大学院生の国内学会発表実績

令和2年度の大学院生による国内学会発表実績は下記のとおり。

博士課程前期 19 件

- ・下田夏緒(M2), 秋月一駿, 平野哲男, 山崎 岳, 石原康宏, 谷口隆信, 末吉紀行, 亀下 勇, 村井稔幸, 石田敦彦, ヒト乳がん細胞の遊走におけるCaMキナーゼホスファターゼの機能的役割 第43回日本分子生物学会年会, 2020年12月2日～4日, オンライン, ポスター発表
- ・Akira Ito (M2), Nagisa Matsuda, Misako Okumura and Takahiro Chihara. Highly sensitive and non-invasive in vivo monitoring in Drosophila using the Akaluc/AkaLumine bioluminescence system 第43回日本分子生物学会年会, 2020年12月2日～4日, オンライン, ポスター発表
- ・中山賢一(M2), 千原崇裕, 奥村美紗子, 「Pristionchus pacificusを用いた新規光受容機構の探索」線虫学ミーティング2020, 2020年11月10日, オンライン, ポスター発表
- ・中山賢一(M2), 千原崇裕, 奥村美紗子, 「Genetic approaches to understand the novel light-sensing mechanism using the nematode *Pristionchus pacificus*」第43回日本分子生物学会, 2020年12月2日～4日, オンライン, ポスター発表
- ・中山賢一(M2), 千原崇裕, 奥村美紗子, 「Elucidation of a novel light-sensing mechanism in the nematode *Pristionchus pacificus*」広島大学先端人材育成プログラム 令和2年度国際シンポジウム, 2021年3月6日, オンライン, 口頭発表
- ・馮 乃文 (M2), 上野 勝, Analysis of fission yeast pof1 function on chromosome regulations. 第38回染色体WS・第19回核ダイナミクス研究会, 2021年1月18日, オンライン, ポスター発表
- ・侯 陳 (M1), 上野 勝, ヒストンバリエントH2A.Zのテロメア保護因子Pot1破壊株における機能解析. 日本農芸化学会中四国支部 第58回講演会, 2021年1月13日, オンライン, 口頭発表
- ・Abdelghani Eman M.B.A (M2), 上野 勝, Fission yeast glycogen synthase kinase homologs, gsk3 and

- gsk31, are synthetically lethal with telomere protection gene pot1 . 日本農芸化学会中四国支部 第57回講演会, 2020年9月17日, オンライン, 口頭発表
- ・藤川真穂(M2), 石原康宏, 虚血により活性化したミクログリアの性質. 第61回日本生化学会中国四国支部例会, 2020年7月13日~20日
  - ・川野真慈(M1), 馬場直道, 対馬忠広, 三澤嘉久, 石原康宏, 母体のDHA摂取による仔の脳内エストロゲンの増加と熱性けいれんの抑制. 第61回日本生化学会中国四国支部例会, 2020年7月13日~20日
  - ・川野真慈(M1), 馬場直道, 対馬忠広, 三澤嘉久, 石原康宏, 母体のDHA摂取による仔の熱性けいれん感受性の低下. 第137回日本薬理学会近畿部会, 2020年6月20日
  - ・寺田富美(M2), 奥村美紗子, 千原崇裕, 濱生こずえ, ダイナミン2関連疾患の微小管制御を介した分子機構の解明, 日本動物学会第91回大会, 2020年9月5日, オンライン, ポスター発表
  - ・Fumi Terada (M2), Mikiko Nakagushi, Ryuji Fujito, Misako Okumura, Takahiro Chihara, Kozue Hamao, Elucidation of the molecular mechanism of microtubule regulation by disease-associated dynamin-2 mutations, 第43回日本分子生物学会年会, 2020年12月4日, オンライン, ポスター発表
  - ・森脇翔悟(M1), 成松勇樹(M2), 岩越栄子, 内藤万菜(M1), 古満芽久美, 浮穴和義, 「マウスにおけるRFamide-related peptideのエネルギー代謝への影響」日本動物学会第91回大会, 2020年9月, オンライン, ポスター発表
  - ・内藤万菜(M1), 成松勇樹(M2), 岩越栄子, 古満芽久美, 門田惇希(M2), 浮穴和義, 「高糖質食給餌マウスにおける視床下部分泌性小タンパク質NPGLの脂肪蓄積作用」日本動物学会第91回大会, 2020年9月, オンライン, ポスター発表
  - ・成松勇樹(M2), 岩越栄子, 門田惇希(M2), 古満芽久美, 浮穴和義, 「高カロリー食給餌マウスにおける視床下部分泌性小タンパク質NPGLの脂肪蓄積作用」日本動物学会第91回大会, 2020年9月, オンライン, ポスター発表
  - ・門田惇希(M2), 岩越栄子, 古満芽久美, 成松勇樹(M2), 浮穴和義, 「糖尿病モデルラットを用いた視床下部分泌性小タンパク質NPGLの機能解析」日本動物学会第91回大会, 2020年9月, オンライン, ポスター発表
  - ・森脇翔悟(M1), 成松勇樹(M2), 福村圭介, 岩越栄子, 古満芽久美, 浮穴和義, 「マウスにおいてRFamide-related peptideがエネルギー代謝に及ぼす影響」第11回ペプチド・ホルモン研究会, 2020年12月, オンライン, 口頭発表
  - ・藤田健太(M2), 石原康宏, 大黒亜美, 山崎 岳, 多価不飽和脂肪酸による神経毒に対する培養神経細胞の保護効果とその分子機構. 第61回日本生化学会中国四国支部例会, 2020年7月13日~20日

#### 博士課程後期 15 件

- ・亀田朋典(特別研究学生:D4), 中嶋秀行, 滝沢琢己, 三浦史仁, 伊藤隆司, 中島欽一, 今村拓也, 神経活性化による新規DNAメチル化を介した遺伝子エンハンサー活性制御は興奮性シナプス形成に寄与する 第14回エピジェネティクス研究会年会, 2021年3月30日, オンライン, ポスター発表
- ・亀村興輔(D1), 陳 俊安, 奥村美紗子, 関根清薫, 神山大地, 三浦正幸, 千原崇裕, Exploring the intra- and extracellular functions of ALS-related ER protein VAP, 第53回日本発生生物学会, 2020年9月25日, オンライン, 口頭発表・ポスター発表
- ・亀村興輔(D1), 奥村美紗子, 関根清薫, 神山大地, 千原崇裕, ショウジョウバエを用いたALS関連小胞体膜タンパク質VAPの細胞外機能及び分泌機構解析, 第43回日本分子生物学会年会,



2020年12月2日, オンライン, ポスター発表

- Yuuki Ishita (D1), Takahiro Chihara and Misako Okumura. Three distinct serotonin receptors modulate predatory feeding behavior in the nematode *Pristionchus pacificus*. 第43回日本神経科学大会, 2020年7月29日～8月1日, オンライン, 口頭発表
- 井下結葵 (D1), 千原崇裕, 奥村美紗子, 「捕食性線虫 *Pristionchus pacificus* における行動多型制御メカニズムの神経遺伝学的解析」線虫学ミーティング2020, 2020年11月10日, オンライン, ポスター発表
- 井下結葵 (D1), 千原崇裕, 奥村美紗子, 「Two distinct feeding behaviors are regulated via different combinations of serotonin receptors in the nematode *Pristionchus pacificus*」第43回日本分子生物学会, 2020年12月2日～4日, オンライン, ポスター発表
- EMAMI PARVANEH (D2), 上野 勝, 3,3'-Diindolylmethane induces autophagy and apoptosis in fission yeast. 日本農芸化学会中四国支部 第57回講演会, 2020年9月17日, オンライン, 口頭発表
- 田中美樹 (D2), 伊藤康一, 鍋谷 悠, 石原康宏, 浮遊粒子状物質曝露マウスを用いた脳梗塞予後への影響の解析. 第61回日本生化学会中国四国支部例会, 2020年7月13日～20日
- 田中美樹 (D2), 伊藤康一, 鍋谷 悠, 石原康宏, 微小粒子状物質 (PM2.5) 曝露による炎症誘発と脳梗塞予後の増悪. 第137回日本薬理学会近畿部会, 2020年6月20日
- 田中美樹 (D2), 伊藤康一, 鍋谷悠, 石原康宏, Effects of airborne particle exposure on prognosis of ischemic stroke. 第47回日本毒性学会学術年会, 2020年6月29日～7月1日
- Tanaka M (D2), Fujikawa M, Itoh K, Ishihara Y. Activated microglia in ischemic stroke aggravate brain edema in Mice. GLIA IN HEALTH & DISEASE Cold Spring Harbor Laboratory Meetings & Courses, 2020年7月16日～20日
- 郭 潤昭 (D2), 寺田富美, 藤土竜司, 中串実姫子, 奥村美紗子, 千原崇裕, 濱生こずえ, ダイナミン-2はエンドサイトーシスと異なるメカニズムで微小管を制御する, 日本動物学会第91回大会, 2020年9月5日, オンライン, ポスター発表
- Runzhao Guo (D2), Mikiko Nakagushi, Fumi Terada, Misako Okumura, Takahiro Chihara, Kozue Hamao, Exploration of Dynamin-2-interacting protein in microtubule regulation, 第43回日本分子生物学会年会, 2020年12月4日, オンライン, ポスター発表
- 客野瑞月 (D2), 佐久間哲史, 鈴木賢一, 山本 卓, 野瀬俊明, 恒川直樹, 竹内 隆, 林 利憲, 新規モデル生物 “イベリアトゲイモリ” を用いた始原生殖細胞決定の分子機構の解析 日本動物学会第91回大会, 2020年9月4日～5日, オンライン
- 客野瑞月 (D2), 佐久間哲史, 鈴木賢一, 山本 卓, 田澤一郎, 古野伸明, 野瀬俊明, 恒川直樹, 竹内 隆, 林 利憲, *dazl* 遺伝子はイモリの性分化以前の生殖細胞形成に機能する 第43回日本分子生物学会年会, 2020年12月2日～4日

\* 基礎生物学プログラム, 数理生命科学プログラムと一部重複します。

#### 1-3-4 大学院生の国際学会発表実績

令和2年度の大学院生による国際学会発表実績は下記のとおり。

博士課程前期 0件

該当無し

博士課程後期 2件

- Tanouchi, M. (D2), Igawa, T., Suzuki, M., Suzuki, N. and Ogino, H.: Convergent evolution of duplicated genes in different evolutionary lineages. 第53回日本発生生物学会大会 [アジア太平洋発生生物学会ネットワーク (APDBN) との共催], 2020年5月19日~22日
- EMAMI PARVANEH (D2), Masaru Ueno. 3,3' Diindolylmethane induces autophagy and apoptosis in fission yeast. HiHA Young Researchers Workshop, 2020年11月24日, 国際シンポジウム, オンライン, 口頭発表

\* 基礎生物学プログラム, 数理生命科学プログラムと一部重複します。

### 1-3-5 修士論文発表実績

学生氏名	論文題目
下田夏緒	ヒト乳がん細胞の遊走におけるCaMキナーゼホスファターゼの機能
藤田健太	ドコサヘキサエン酸によるメチル水銀毒性に対する神経保護機構
成松勇樹	マウスにおける視床下部分泌性タンパク質NPGLの機能解析
門田惇希	視床下部分泌性小タンパク質NPGLの作用及び発現制御機能の解明—栄養状態との関係—
藤川真穂	虚血により活性化するミクログリアサブタイプの同定と特異的遺伝子発現の解析
澤井謙吾	分裂酵母の核小体動態と体積変化の解析
生田裕美	イモリの心筋細胞の増殖開始機構の解明に向けたcyclinD1の転写制御機構の解析と遺伝子機能解析
ABDELGHANI, EMAN MOHAMMED BAHAAELDEEN A.	Studying genes which affect the stability of circular chromosomes for cancer therapyimprovement(癌治療への応用を目指した環状染色体安定性に関与する遺伝子の研究)
伊藤航希	分裂酵母核膜タンパク質による核内因子の動態制御機構の解析
FENG, NAIWEN	染色体制御における分裂酵母Pof1の機能解析

### 1-3-6 博士学位

申請基準：博士論文は、レフェリー付きの国際学術誌に公表論文が受理されていることが必須条件であり、プログラム内における予備審査に合格したものが申請することができる。

学位授与実績： 該当無し

### 1-3-7 TAの実績

【博士課程前期】		【博士課程後期】	
在籍者数（11.1現在）	24人	在籍者数（11.1現在）	10人
TAとして採用されている者	8人	TAとして採用されている者	4人
在籍者数に対する割合	33%	在籍者数に対する割合	40%

### 1-3-8 大学院教育の国際化

生命医科学プログラムにおける必修講義：先端生命技術概論及び疾患モデル生物概論では日本語・英語を併用した講義が実施されている。また、博士課程前期及び博士課程後期の双方に留学生が在籍していることから、日本人学生との異文化交流も進んでいる。生命医科学セミナーでは、積極的に日本人学生と留学生の質疑応答を促す工夫もある。今後も積極的に留学生を受け入れることでプログラム内の学生達の国際性、及び語学力向上を目指す。

### 1-4 プログラムの研究活動

生命医科学プログラム運営教員会を構成する各教員に関する令和2年度に行われた研究活動の成果や研究助成金の受入状況については、兼任プログラムの「1-4 プログラムの研究活動」をご参照ください。

各教員の兼任プログラムは以下の通り。

基礎生物学プログラムを兼任する教員：千原崇裕，今村拓也，林 利憲，奥村美紗子，鈴木 誠，高井嘉樹

数理生命科学プログラムを兼任する教員：落合 博，細羽康介，坊農秀雅，杉 拓磨

生命環境総合科学プログラムを兼任する教員：石原康宏，大黒亜美

生物工学プログラムを兼任する教員：上野 勝，久米一規，湯川格史

ゲノム編集イノベーションセンターを兼任する教員：下出紗弓

#### 1-4-1 研究活動の内容

##### ●学生の実績

氏名	学年	賞の名称	研究内容	授与者	授与年月日	指導教員
藤川真穂	M2	第61回日本生化学会 中国・四国支部例会 学術奨励賞	虚血により活性化したミクログリアの性質	第61回日本生化学会中国・四国支部例会 実行委員長 山崎岳	令和2年7月20日	石原康宏
川野真慈	M1	第61回日本生化学会 中国・四国支部例会 学術奨励賞	母体のDHA摂取による仔の脳内エストロゲンの増加と熱性けいれんの抑制	第61回日本生化学会中国・四国支部例会 実行委員長 山崎岳	令和2年7月20日	石原康宏

田中美樹	D2	第27回日本毒性学会 学術年会「学生ポスター発表賞」	大気中微粒子曝露マウスを用いた脳梗塞予後への影響の解析	第47回日本毒性学会学術年会 会長 広瀬明彦	令和2年7月1日	石原康宏
井下結葵	D1	第43回日本神経科学大会、国内トラベルアワード	Three distinct serotonin receptors modulate predatory feeding behavior in the nematode <i>Pristionchus pacificus</i>	第43回日本神経科学大会 大会長 北澤 茂	令和2年7月29日	千原崇裕
中山賢一	M2	広島大学エクセレントスチューデントスカラシップ	学業成績、学術活動等において優秀と認められたため	広島大学学長 越智光夫	令和2年12月23日	千原崇裕
森脇翔悟	M1	広島大学エクセレントスチューデントスカラシップ	学業成績、学術活動等において優秀と認められたため	広島大学学長 越智光夫	令和2年12月23日	浮穴和義
成松勇樹	M2	広島大学エクセレントスチューデントスカラシップ	学業成績、学術活動等において優秀と認められたため	広島大学学長 越智光夫	令和2年12月23日	浮穴和義

●RAの実績

氏名	学年	所属研究室	研究プロジェクト名	指導教員
井下結葵	D1	細胞生物学	線虫における行動多型の制御メカニズムの解明	千原崇裕
亀村興輔	D1	細胞生物学	筋萎縮性側索硬化症（ALS）関連タンパク質VAPの細胞外生理機能と分泌機構解明	千原崇裕
GUO, RUNZHAO	D2	細胞生物学	ダイナミン-2による微小管制御の分子機構の解明	濱生こずえ
AN, BOYANG	D1	情報生理学	ノンコーディングRNAによるほ乳類脳エピゲノム制御	今村拓也

1-4-2 研究グループ別（プログラムによっては個人）の研究活動の概要、発表論文、公演等

兼任プログラムの「1-4 プログラムの研究活動」をご参照ください。

1-4-3 各種研究員と外国人留学生の受入状況

【令和2年度研究員】

- ・ 執行航希

- ・大石裕晃
- ・高井嘉樹

**【令和2年度外国人客員研究員】**

該当無し

**【令和2年度外国人留学生】**

博士課程前期

- ・ ABDELGHANI, EMAN MOHAMMED BAHAAELDEEN A. (エジプト) (平成31年4月入学)
- ・ FENG, NAIWEN (中国) (平成31年4月入学)
- ・ HOU, CHEN (中国) (令和2年4月入学)
- ・ OU, YUSHI (中国) (令和2年4月入学)

博士課程後期

- ・ EMAMI, PARVANEH (イラン) (平成31年4月入学)
- ・ GUO, RUNZHAO (中国) (令和元年10月入学)
- ・ AN, BOYANG (中国) (令和2年10月入学)
- ・ HOSSAIN, NUSRAT (バングラデシュ) (令和2年10月入学)

**1-4-4 研究助成金の受入状況**

兼任プログラムの「1-4 プログラムの研究活動」をご参照ください。

**1-4-5 学界ならびに社会での活動**

兼任プログラムの「1-4 プログラムの研究活動」をご参照ください。

**1-5 その他特記事項**

該当無し

